

様式 A 世界史（角谷）

科目にかかわる情報				
科目の 基本 情報	授業科目 (欧文)	世界史 World history		単位 2
	一般・専門の別・ 学習の分野	一般 人文・社会	授業形態・学期	講義・通年
	対象学生	1年共通	必修・必履修・ 履修選択・選択の別	必履修
	担当教員・所属系	角谷英則・総合理工学科電気電子システム系		
科目の 学習・ 教育内 容にか かわる 情報	基礎となる学問分野	史学・歴史社会学		
	学科学習目標との関 連	本科目は目標「①教養豊かな実践的人間力の養成、⑤グローバルな視点と社会性の養成、⑦コミュニケーション力・プレゼンテーション力の育成」に相当する科目である。		
	技術者教育プログラ ムとの関連	本科目が主体とする学習・教育到達目標は「(B)地球的視野に立った人間性の育成」「B-2:地球上の多様な歴史観・文化・習慣の違いを理解し、説明できること」である。		
	授業の概要	日本列島をのぞく世界の歴史を中心に、日本列島との関係にも言及しながら概観する。膨大な学習対象の量に比して、時間数は限られているため、時間・空間ともに適宜抽出した内容を扱うことになるが、本講義は比較史的視角をつねに意識しながらすすめられる。		
	学習目的	通史の概説講義を受けたのち、主体的に歴史学上の課題に取り組むことによって、歴史学的な思考を展開する訓練をおこなう（経験する）ことが目的である。		
	到達目標	・人文・社会科学的な視点から人間、社会、文化について多面的に理解し、国際社会の一員として社会的諸問題の解決に向けて主体的に貢献する自覚と素養を培う意識をもつこと。 ・人間活動や科学技術の役割と影響に関心を持ち、幸福とは何かを追究しながら、技術者として社会に貢献する自覚と素養を培う意識をもつこと。 ・日本を含む世界の様々な生活文化、民族・宗教などの文化的諸事象について、歴史的観点から理解できる必要性を理解すること。		
履修上の注意		カリキュラムにおいて設定されている時間数に比するなら、学習内容は膨大である。授業において、すべてを網羅することは不可能なので、図書館の利用などによる主体的学習が望まれる。本科目は学年の課程修了のために履修が必要である。		
履修のアドバイス		積極性をもって講義に関わるのが肝要である。		
基礎科目		なし		

関連科目	政治経済（全系2年）、日本史（全系2）、異文化社会論（全系4）、日本社会論（全系4）
------	--

様式B 世界史（角谷）

授業にかかわる情報			
授業の方法		通史的解説によって授業を進めるが、日本列島をのぞく諸地域の歴史という生活上の実感をもちにくい学習内容の性質上、映像資料をできるだけ用いる。年に数回、小課題への取り組みを求める。また、講義内容は受講者の状況などを参照しつつ柔軟に設定する。	
授 業 計 画	開講週		内容〔項目〕（指示事項）
	前期	1週 ● ガイダンス 2週 ● 歴史学とはなにか（1） 3週 ● 歴史学とはなにか（2） 4週 ● 歴史学とはなにか（3） 5週 ● 歴史学とはなにか（4） 6週 ● 人類史の最初期段階 7週 ● （前期中間試験） 8週 ● オリエン特世界と地中海世界の形成 9週 ● 南アジア世界の形成 10週 ● 東南アジア世界の形成 11週 ● 中央ユーラシア世界の形成と展開 12週 ● 東アジア世界の変動と再編 13週 ● イスラーム世界の形成と拡大 14週 ● ヨーロッパ世界の形成（前期末試験） 15週 ● ユーラシア大帝国の出現	
	後期	16週 ● アジア諸地域の栄華と成熟 17週 ● 世界をめぐる銀 18週 ● 琉球・アイヌからみた世界史 19週 ● 大規模な分業体制の成立 20週 ● 西ヨーロッパの覇権争いと世界的な分業体制の拡大 21週 ● 環大西洋革命／工業文明と国民国家の誕生 22週 ● 近代諸革命の意味 23週 ● （後期中間試験） 24週 ● イギリスの覇権と欧米の国民国家建設 25週 ● 世界の一体化の進展とアジアの変容 26週 ● 世界の一体化の完成とその影響 27週 ● 世界大戦の時代 28週 ● 東西冷戦から多極的国际社会へ 29週 ● 相互依存を深める世界（後期末試験） 30週 ● アメリカの覇権と盛衰	

教科書，教材等	世界史 B，実教出版 最新世界史図説タペストリー，帝国書院
成績評価方法	最低 4 回，取り組みを求めるレポートによっておこなう。歴史教育における成績評価方法の問題は，それ自体をひとつのテーマとして講義中でとりあげる。
受講上のアドバイス	受動的態度による受講では学習に喜びを見いだすことは困難である。積極的に学習する意欲をもってはじめて学習成果は教養となることを銘記されたい。遅刻（開始時間におくれること）については受講者の自覚を求め、特段のペナルティはあたえない。

ルーブリック							
	優		良		可		不可
評価項目 1	十分に授業に参加すること		2/3 以上の授業に参加すること		2/3 以上の授業に参加すること		10 回をこえて欠席すること
評価項目 2	指示に十分に違ったレポートを提出すること		指示にある程度違ったレポートを提出すること		最低限支持に従ったレポートを提出すること		指示に従ったレポートを提出しないこと
評価項目 3	なし		なし		なし		なし
評価割合							
	試験	発表	相互 評価	自己 評価	課題	小 テスト	合計
総合評価割合	0	0	0	0	100%	0	100%
基礎的能力	0	0	0	0	100%	0	100%
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0